英語ライティング授業での添削と形態についての一考察：大阪樟蔭女子大学国際英語学科学生対象アンケートを通して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山岡, 賢三 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4460

英語ライティング授業での添削と形態についての一考察
－大阪樟蔭女子大学国際英語学科学生対象アンケートを通して－

樟蔭学園英語教育センター
センター長　山岡　賢三

1．はじめに

2010 年，中国・吉林大学 Xu Zhiqing，日本・大阪市教育センター山岡賢三，マケドニア・スコピエ大学 Elena Oncevska が，オレゴン大学言語学部アメリカ英語研究所プログラムにおいて，共同で調査研究した論文，“ASSESSMENT AND SET-UP OF THE WRITING CLASSES ” [1] を執筆した。この論文は，中国・日本・マケドニアのそれぞれの大学で英語によるアカデミック・ライティングの授業はどのように行われ，それぞれの地域における学生はその授業をどのように認識し，どんな意見を持っているのかを，アンケートを通して 3 つの異なる教育・学習環境での教室の雰囲気を調べることを目標として実施された調査研究である。

上記の論文を参考に，2019 年大阪樟蔭女子大学国際英語科の学生を対象にアンケートを実施し，学生たちが英語のライティングの授業をどのように認識し，どのような意見を持っているのかを調査分析し，今後のライティング授業に示唆を与えるものである。

2．研究の方法

2.1　アンケート対象者

このアンケートの回答は大阪樟蔭女子大学国際英語学科の学生全員に強制したものではなく，学生の自主的な回答であったため，アンケート結果に示されたデータの対象者は大阪樟蔭女子大学国際英語学科 1 回生 36 人，2 回生 9 人，3 回生 4 人，4 回生 2 人，合計 51 人である。

2.2　アンケートの設問

調査は，16 の質問からなる質問表の形で行われた。 前の 9 の質問はライティングクラスの添削に関するもので，残りの 7 問はライティングクラス

の形態に関するものである。 16 の質問のうち，11 は二択・多肢選択問題，2 は二択・多肢選択問題と自由記述の組み合わせ，2 は自由記述，1 は順序順位問題である。

2. 3　データ収集

1,2,3 回生については，2019 年 7 月に担当教師にアンケート配布を依頼し，授業の後学生が個人的にアンケートに回答，7 月中に学生が直接英語教育センター (以降 ELTC) に提出したものを回収した。4 回生については，9 月 ELTC で自主学習をしていた学生に個人的に頼みアンケートに答えてもらった。

2. 4　データ分析

すべての質問に対する学生の回答を分析した。 各質問に回答された項目の人数の多少から学生の認識や傾向を分析した。質問 6 は順序ランク付けの質問で，各項目（a. 文法，b. 語彙，c. 全体構成，d. 内容）に数値を割り当てることによって，4 つの項目に関するフィードバックをランク付けするように学生に依頼し，その平均値からその有益性を分析した。また，「自由記述」からも学生の意見を分析した。学年間の異なるデータの比較を期待したが，2 〜 4 回生のデータが少なかったため，各学年での比較分析を断念した。

3.　調査結果

3. 1　添削について

3. 1. 1　質問 1

1. ライティングについてフィードバックを受ける際どのパターンが良いですか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. 先生が言語的に誤っている個所を修正してくれる。	18	0	1	1	20
b. 先生が言語的に誤っているところを指摘してくれる。	5	3	1	0	9
c. 自分で誤っている箇所を直せるように，先生が言語的に誤っている箇所を指摘してくれた上，間違いの種類も指摘してくれる。	13	6	2	1	22
d. その他	0	0	0	0	0

3. 1. 2 質問 2

2. レポート課題に先生からの書いた内容に関する一般的なコメントを欲しいと思いますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. Yes.	33	9	4	2	48
b. No.	3	0	0	0	3

＊「上のように考える理由は何ですか？」

Yes のコメント：

・見てもらえることを感じることができるから。
・次回からどのような点に気をつければよいか教えてもらえる。
・コメントをもらうことでやり方が合っているか確認できる。
・コメントをもらうとうれしい気持ちになる。
・先生がどう思ったのか知りたいから。
・そこから話が広がる。
・次に生かすため。
・せっかく書いたからコメントが欲しい。
・コメントを貰う事でやる気が出るから。
・コメントで気づかされることもあるから。
・楽しいから。
・レポートの内容が合っているのか分からないままで，レポートの書き方も間違えたまま生活することが嫌だから。
・先生の考えや意見も知りたい。
・ある方がどこを間違えたのか分かるし，直しやすい。
・客観的な意見も欲しいから。
・先生との会話の糸口になるから。
・自分の課題がどのように思われているのか知れるから。
・主にどの表現がいい悪いなど教えてもらいたいから。

No のコメント：

・いつも同じような内容になっているから。

3.1.3　質問 3

3. 先生からのフィードバックをどの程度理解できていますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a.　80 – 100%	19	3	2	2	26
b.　50 – 70%	17	6	1	0	24
c.　50% 以下	0	0	1	0	1

3.1.4　質問 4

（複数回答可）

4. 先生からのコメントで理解できない部分があった場合，あなたはどうしていますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. より詳しい説明を先生に求める。	33	5	2	2	42
b. クラスメートに尋ねる。	12	2	4	0	18
c. 辞書を調べたりライティングに関する書籍等資料にあたったりなどして調べる。	5	1	1	0	7
d. 先生からのコメントについては特に何もしない。	0	1	0	0	1
e. その他	7	1	0	1	9

＊「その他」の説明
・ELTC の先生に尋ねる。（複数）

3.1.5　質問 5

5. あなたは先生のフィードバックについてどう思っていますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. 大半が有益であり，完全にお手本とする。	19	3	3	1	26
b. ある部分は参考になり，部分的にお手本にする。	17	6	1	1	25
c. 先生からのフィードバックは無視し，自分の意見にこだわる。	0	0	0	0	0
d. その他	0	0	0	0	0

3.1.6　質問 6

＊1：「最も有益」～　4：「全く有益でない」

6. どんなフィードバックがあなたにとって最も有益ですか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	平均
a. 文法	1.8	1.2	1.8	1	1.7
b. 語彙	1.6	2.1	2	1	1.7
c. 全体の構成	1.8	2.1	1.8	1.5	1.8
d. 内容	1.8	2.4	2	2	1.9

3.1.7　質問 7

7. 先生からフィードバックを受けた後書き直していますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a.　Yes.	33	7	3	2	45
b.　No.	3	2	1	0	6

3.1.8　質問 8

＊質問 7 で Yes を選んだ人

8. 書き直したとき自分のライティングの質についてどう感じていますか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. 書き直すたびに非常に改善されていると感じる。	16	2	0	2	20
b. 書き直すとやや改善されたと感じる。	16	5	3	0	24
c. 書き直しても全く改善を感じられない。	1	0	0	0	1

3.1.9　質問 9

＊質問 7 で No を選んだ人（複数回答可）

9. 書き直さない理由は何ですか？	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. 十分時間がないから。	2	0	0	0	2
b. 自分の英語力が十分ではないから。	1	1	0	0	2
c. 先生のコメントを理解できないから。	0	0	0	0	0
d. そのライティング課題に興味を持てないから。	0	0	0	0	0

d. その他	0	1	1	0	2

＊「その他」の説明

・忘れてしまう。

・見たら満足してしまうから。

3.2　形態について

3.2.1　質問 10

10. ライティングの先生はどちらがいいですか。	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a.　日本人	2	1	1	0	4
b.　ネイティブ	34	8	3	2	47

3.2.2　質問 11

＊質問 10 で日本人を選んだ人（複数回答可）

11. なぜ日本人の先生がいいですか。その理由を答えてください。	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. 日本語で説明してくれるから。	1	0	1	0	2
b. 文法をわかりやすく説明してくれるから。	1	1	0	0	2
c. その他	0	0	0	0	0

3.2.3　質問 12

＊質問 10 でネイティブを選んだ人（複数回答可）

12. なぜネイティブの先生がいいですか。その理由を答えてください。	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. ネイティブならではの英語表現を教えてくれるから。	26	8	2	2	38
b. 書いた英語の正しい発音やイントネーションを教えてくれるから。	13	1	2	0	16
c. その他	2	0	1	0	0

＊「その他」の説明

・派生して反対の意味や語句，似ている語句だけど違うところを教えてくれる。

3.2.4　質問 13

13. ライティング過程の途中のある時点で，クラスメートたちと共同で作業することができたらいいと思いますか。	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a.　Yes.	27	4	1	1	33
b.　No.	9	5	3	1	18

3.2.5　質問 14

＊質問 13 で Yes を選んだ人

14. ライティングのどの過程でグループ作業があったら良いと思いますか。	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	合計
a. ライティングの前。	2	0	1	0	2
b. ライティング中，ライティングの作業自体。	22	2	0	1	25
c. ライティングの後	3	2	0	0	5

＊「どんな形態のグループワークなら面白いと思いますか。」

・好きなメンバー。
・先生がゲームを提案して話し合うグループワーク。
・色んな情報をシェアする。
・色んな国について。
・ゲームをしながらする。
・少人数で楽しくするグループワーク。
・毎回違うグループでする。
・毎回ランダムで決める。
・色んな話ができるワーク。
・ディベート。
・みんなで文を構成させる。

3.2.6　質問 15

＊質問 13 で Yes を選んだ人

「15. ライティングの過程でグループワークをするのが良いと考える理由は何ですか。」（自由記述）

・ライティングの内容が他の人とかぶらない。
・様々な意見が交換できる。
・どのようにしたらより上手にできるか話し合える。
・少人数で内容について話し合える。
・自分だけの意見ではなく他の人の意見も聞ける。
・相談して書く方が書きやすい。
・分からない所を一人でかかえこまなくていいから。
・授業内でやったほうが先生もいるから。
・あまり仲良くない人でも仲良くなれそうだから。
・みんなで協力することで勉強しやすくなる。
・楽しいから。
・思っている事を普段話すことのない友人とも関われるから。
・分からないところを補えるから。
・クラスの人とコミュニケーションをとりながら楽しく勉強できるから。
・自分で考えていた言い回しと，また違う言い回しをメンバーが出してきて，発見があるかもしれないから。
・いろんな人の意見が聞けるし，文法力や語彙力があがるから。
・分からないところをみんなで共有できるから。
・一人でするのが苦手な人もいるから。
・4 人ぐらいでしたい。

3.2.7　質問 16

＊質問 13 で No を選んだ人

「16. なぜライティングの過程で他の人とグループワークをするのが良いと思わないのですか。」（自由記述）

・ライティングは一人がよい。
・無駄なことをしゃべって時間をつぶしてしまう可能性がある。
・やる気のない人と同じグループなら全く役に立たない。
・ライティングは自力で書けるから。
・一人で考えることが大事だと思うから。
・一人でやりたい。
・先生に質問するか辞書で調べたほうが早いから。

・自分自身で書いて先生に見てもらって理解したいから。
・人によって意見が異なるから。
・自分で出来るから。
・レポートは自分でするものだから。
・一人で集中したいから。
・スピーキングの授業なら分かるが，ライティングの授業でしなくてもいい。
・個人でやりたい。

4. アンケート結果の分析と考察

4. 1　添削について

質問 1 の回答から，間違いを修正してほしいと思う 20 名の学生は，教師の依存度の高さ，または学生自身の学習に対する未準備が考えられる。9 名の学生が自分の誤りを指摘してもらうことを選んだ。これは，解決策が与えられるのではなく，学生自身が自らの評価において積極的に問題を解決する準備ができていることを示唆している。

質問 2 の回答から，ほとんどの学生が教師からのコメントを欲しがっていることが分かった。その理由を見ると，「どこを間違えたかわかる」「どの表現がいいか悪いかを教えてもらいたい」「どのような点に気をつければよいか教えてもらえる」など自分が書いた英文についての指摘だけではなく,「先生との会話の糸口になる」「見てもらえることを感じる」「コメントをもらうとうれしい気持ちになる」「やる気が出る」「楽しい」など，教師との情緒的なインタラクションを望んでいることが分かった。

教師のフィードバックについて，質問 3 の回答から，ほとんどの学生が教師からのフィードバックを半分は理解していることが分かった。質問 4 の回答から，教師のコメントの理解ができない部分があった場合，ほとんどの学生は担当教師に説明を求め，何名かは友達に尋ねるか，自分で調べる学生もいた。また，その他の回答で「ELTC の先生に尋ねる」と答えた学生も見られた。質問 5 の回答から，教師のフィードバックを「大変有益である」と答えた学生が 26 名，「部分的に参考になる」と答えた学生が 25 名で，全員の学生が何らかの形で教師のフィードバックを手本にしていることが分かった。質問 6 の回答から，「1: 最も有益～ 4: 全く有益でない」の基準で平均すると，文法 1.7，語彙 1.7，全体構成 1.8，内容 1.9 と，どの項目も比較的有

益であると評価していることが分かった。また，教師のフィードバックを受けてほとんどの学生が書き直していることも分かった。

書き直しについて，質問 8 の回答から，質問 7 で Yes を選んだ学生の中で，「書き直すたびに非常に改善されると感じる」と答えた学生 20 名，「書き直すとやや改善されると感じる」と答えた学生が 26 名と，ほとんどの学生が「改善される」と感じていることが分かった。質問 9 の回答から，質問 7 で No を選んだ学生の「書き直さない理由」は，「時間がない」「英語力が十分でない」「（書き直すことを）忘れてしまう」「（教師のコメントを）見たら満足をしてしまう」など学生自身の性格や能力によることが多いと考えられる。

4. 2　形態について

質問 10 の回答からライティングを指導してほしい教師は日本人が 4 名，ネイティブが 47 名と圧倒的にネイティブ教師を望んでいることが分かった。質問 11 の回答から，日本人を選んだ学生の理由は，「日本語で説明してくれるから」「文法を説明してくれるから」であった。日本語で説明してもらえる，日本語で分からないことを聞けるなど，英語でのコミュニケーションの不安を避けるため，日本語での安心感を選んだように思える。質問 12 の回答から，ネイティブの教師を選んだ理由として，「ネイティブならではの英語表現や発音・イントネーションを教えてもらえる」と答えていたことから，本学の国際英語学科ではライティングの授業をネイティブ教師が受け持っているため，ほとんどの学生がネイティブ教師の利点を指摘したと思われる。

ライティング授業での共同作業について，質問 13 の回答から，クラスメート共同作業を望んだ学生が 33 名，望まなかった学生 18 名であった。質問 14 の回答から，質問 13 で Yes と答えた学生の中で，ライティング作業中に共同作業を望む学生が多いことが分かった。また，質問 15 の回答から，その理由として，「様々な意見が交換できる」「みんなで協力することで勉強しやすくなる」「コミュニケーションをとりながら楽しく勉強できる」など，グループワークの利点を指摘していた。質問 16 の回答から，質問 13 で No と答えた学生の理由として，「ライティングは一人でするもの」「一人で考えることが大事」など，個人で書く作業に集中したいと思う学生の理由が分かった。

5. まとめ

ライティングの授業では，誤り訂正は教師のフィードバックの大部分を構成するようだ。 学生はすでにこの慣習に慣れているので，誤り訂正が教師のフィードバックからの最も大きな利点であると主張している。これは，自分の文章について読者がどのように感じ，考えているかを知りたがっていること，そして教師と生徒とのコミュニケーションツールとして教師のコメントを理解していることによるものである。

自分の間違いについて何もしないと言った学生は，コメントを理解するのに十分な努力を払っていないか, すぐに忘れてしまったかのどちらかだろう。この問題を克服する 1 つの方法は，各ユニットの後に can-do ステートメントを導入することである。重要なスキルを学生に覚えさせるのに役立つだろう。

学生が教師のフィードバックをどの程度理解できるかは，学生の能力，教師のコメントの明確さなど，さまざまな要因によって異なる。友だちに相談したり物事を調べたりすることに頼る学生もいるが，曖昧な言い方をしたコメントに対しては，教師に相談する方がはるかに一般的な反応である。それは教師への依存を暗示するかもしれない。しかしながら，望月 (2018) が「誤りの訂正方法については，認知的に深く処理すれば長期記憶に結びつく点を考えると，自分で発見するよう導く方法はもちろん，仲間同士で発見 (peer review) させる方法も有効である [(2)]」と指摘しているように，教師が全面的に訂正する方法からペアやグループワークを取り入れ，仲間同士が指摘し合う方法も考えられる。

グループワークは自然にライティングに組み込まれることができると信じている。アイディアを共有し比較すること, ブレインストーミングすること, そして討論することは，ライティングプロセスの質にとって最も役立つと考えられている。このようなやり取りは，書き込み処理を容易にするものとして多くの授業で見られる。栗原 (2017) が「肯定的なクラスメートからのフィードバックは，書く意欲を増大させることができ，他人の文章を読みフィードバックを与えることによって，自らのライティング力の向上も期待できます [(3)]」と指摘しているように，アンケートに参加した学生もまたグループワークの社会的側面の評価を表明したことは興味深い。グループで学習している間「創造的に」大声で話すことが許される，そしてそれは何人かの学生がグ

ループで学習することを楽しいと感じる理由であるかもしれない。

日頃 ELTC を活用する学生の中で，英会話やオンライン学習，TOEIC・英検のための学習以外に多いのは，ライティングの授業で出される課題についての質問である。ELTC で自分が作った英文のネイティブチェックを受けてから授業に臨む学生や，授業の後理解できていない箇所を ELTC の教師に確認する学生もいることから，国際英語学科の授業と ELTC の協同関係を維持することが大切であると考える。

この研究から得られたデータを，学生のライティングスキルをさらに向上させるために，今後のライティングの授業に役立てていただけることを願ってこの稿を閉じたい。

【注】

(1) Xu Zhiqing, Kenzo Yamaoka, Elena Oncevska“ASSESSMENT AND SET-UP OF THE WRITING CLASSES ”Research for University of Oregon, Department of Linguistics, American English Institute in 2010

(2) 望月昭彦編著「新学習指導要領にもとづく英語科教育法第 3 版」大修館書店，2018 年

(3) JACET 教育問題研究会編（栗原文子・他著）「行動思考の英語科教育の基礎と実践 ―教師は成長する―」三修社，2017 年